

第11回福島県U15バスケットボール選手権大会

【新型コロナウイルス感染症に対応した大会ガイドライン】

福島県バスケットボール協会U15部会

以下の項目を実施しても感染リスクをゼロにすることはできません。主催者である我々はもちろん参加チーム、保護者、審判員、そのほか全ての皆様に、この点を十分理解した上で参加いただくとともに、特段のご協力をお願いいたします。

*基本方針 福島県および JBA ・ FBA のガイドラインに沿って実施します。

1 大会前の対応

- (1) FBA 及び地区協会へ実施について知らせ、実施要項を提出する。
- (2) 大会参加者は、主催者が示した「ガイドライン」・「チェックリスト」等を遵守すること。
- (3) 今大会は無観客での開催とする。会場に入場できる者は、参加チームの選手・チーム責任者・スタッフ及び大会役員、審判員、報道関係者のみとし、かつ大会当日に「健康チェックシート」を提出し受理された者のみとする。それ以外の者は会場内立入禁止とする。
- (4) チーム責任者は上記(2)、(3)を関係者に周知する。
- (5) 大会参加者の健康状態等を把握するため、大会参加者全員に「健康チェックシート」の提出を求める。必要事項を記入し、大会当日、忘れず持参すること。
参加チーム責任者は、大会当日、チーム全員の「健康チェックシート」を集め、受付に提出すること。
- (6) 大会前 2 週間以内に発熱(37.5℃以上)があった場合の対応について
 - ① 日常的に発熱(37.5℃以上)がある場合、「通院する」ように促す。
 - ② 大会当日発熱(37.5℃以上)があったり、体調がすぐれない場合は大会参加を見合わせる。
 - ③ 2週間の期間中に発熱(37.5℃以上)があり医療機関を受診し、医師からの指示があった場合には健康チェックシートの「チェック項目 ⑨ その他(自由記述)」の枠に内容を記入する。
例1：○月○日通院「自宅療養をして1～2日で熱が下がれば問題なし」と言われた。
例2：○月○日通院「胃腸炎による発熱」など
 - ④ 2週間の期間中に発熱(37.5℃以上)があったが医療機関を受診していない場合で、大会当日発熱が無い者は受付にて確認する(2、(1)、3)、④参照)。

2 大会中の対応大会中の対応

(1) 健康チェックシートの取り扱いについて

1) チーム責任者

- ① 大会初日の集合時、会場の外でチーム全員の健康チェックシートを集める。その際、チームメンバーの体調観察及び健康チェックシートの確認（発熱、記入漏れや不備）をする。
- ② 当日、発熱(37.5℃以上)があったり、体調がすぐれない者がいた場合、大会参加を見合わせる。
- ③ 健康チェックシートの起床時体温の発熱(37.5℃以上)に赤丸をつける。
- ④ チェック者（赤丸や自由記述がある者）のシートを束の上部に集める。
- ⑤ 受付時にチーム全員分をまとめて表紙に必要な事項を記入のうえ、受付担当者に提出する。
- ⑥ 翌日に試合がある場合は、初日解散前に主催者からシートを受け取る。チームメンバーに再配付し、2日目の記入、提出の指示をする。
- ⑦ 2週目は、同様に①～⑥を行う。

2) 大会役員、審判員

大会役員は総務委員会担当者、審判員は審判委員会担当者へ提出する。

3) 主催者

- ① 会場作成者は会場入口付近に『チーム受付ブース』を設置し、受付担当者（役員）を配置する。
- ② 受付担当者は受付ブースでチーム責任者から提出された健康チェックシートを確認し、確認印（or サイン）をする。
- ③ 受付担当者は確認後にチェック項目がない者に参加可能の指示をする。
- ④ チーム責任者とチェック項目がある者を呼び、「チェック項目①～⑨」の確認作業を行う。問題がなければ参加可能を指示し、問題がある場合は帰宅を促す。
- ⑤ 2日目以降に試合があるチームの健康チェックシートは当該チームの解散前に受け取りに来たチーム責任者に返却する。
- ⑥ 主催者は試合が終了したチームの健康チェックシートを保管する（3か月）。

(2) 受付、入場について

- ① 受付時間は、第1試合は試合開始 60 分前、2 試合日以降は試合開始 90 分前とする。
- ② 第2試合以降のフロア（ベンチ）への入場時間は消毒作業が終了し、前試合のチームがフロアを出た後とする。前試合が遅延した場合は、消毒作業終了後に入場とし、入場後 20 分後に試合を開始する。
- ③ 第1試合の TO・CK の補助役員（出場するチームが担当する場合もある）は 20 分前に受付をし、入場する。

(3) 会場内

- ① コート上を除くすべての方がマスク着用をすること（各自準備する）。屋外で 2m 以上の距離を保てる環境下ではこの限りではない。

- ② こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- ③ 様々な場面において、他の参加者等との距離を十分確保すること。
- ④ 昼食をとる場合は、距離を十分とって対面を避けて食事すること。
- ⑤ ギャラリーでの観戦は試合の当該チームのエントリー外選手のみとする。
- ⑥ 更衣室の使用については主催者の指示に従い、密にならないようにすること。
- ⑦ 荷物、下足は各自が持ってフロアに入場する。
- ⑧ 前試合のハーフタイムのW-up は行わない。屋外でのW-up を原則とするが、屋内施設でW-up 場所を確保できる会場では使用しても構わない。使用後の消毒作業はチームの責任で行う。
- ⑨ 試合が2試合あるチームはフロア、ギャラリー以外で待機し、不要な接触を避けること。不要な接触を避けること。(円陣、握手、ハイタッチ等)

(4) 試合

- ① 指導者・スタッフ・ベンチに座る選手は、マスク着用すること。マスクの管理は各自が責任を持つこと（保管用のビニールを準備する、番号・氏名を記入するなど）。
- ② プレー以外の円陣、握手、ハイタッチ、抱擁等の不要な接触を避けること。
- ③ タオル、ボトル等、すべてのものを共用しないこと。
- ④ ベンチでは可能な限り間隔をとって着席する。
- ⑤ コート上でのチームメイト、審判員との会話の際の距離についても留意する。
- ⑥ 試合前、試合後の審判、相手ベンチへの挨拶はキャプテンのみとし、握手は行わない。
- ⑦ アップ時や試合中にチームで統一されたかけ声や応援は控える。
- ⑧ 試合が終了し選手退場後に、チーム責任者が責任をもってチームベンチエリア内の消毒を行う。各チームは消毒に必要な物品（アルコール消毒液、ペーパータオル、使い捨て手袋、ゴミ袋）を準備する。消毒作業で出たごみは各チームで持ち帰る。）
- ⑨ 試合のビデオ撮影試合をする場合はエントリー外の選手がギャラリーで撮影する。エントリー外の選手がいない場合は主催者に相談する。
 対応例1：女子が5人ちょうどの場合、男子選手や男子チームのマネージャー1名が撮影する。
 対応例2：カメラをギャラリーに設置し、無人で定点撮影とする。 など

(5) TO、CKについて

- ① TO席は長机2つを配置し、TO4名が可能な限り距離をとって着席する。
- ② TO、TO主任、CKはマスクを着用する。
- ③ 試合終了後、スコアラー以外はスコアシートに速やかにサインをする。スコアラーのみステージに残り（または本部控室に行き）、スコアシートを完成させて提出する。
- ④ 試合終了後、スコアラー以外のTOを担当したものはTO席、TO操作盤、筆記用具、CK席、モップの消毒を行う。この消毒作業に必要な物品は大会主催者が用意する。

(6) その他

- ① 大会役員、チームスタッフ以外は敷地内駐車禁止とする。車両の乗り入れは送迎乗降時の停車の

みに限る。

- ② ごみは、各自責任をもって持ち帰ること。
- ③ 手洗い、手指消毒等の注意喚起掲示をする。総務が準備し、会場校が掲示する。
- ④ 手指消毒液、ペーパータオル等の設置をする。大会主催者が準備し、会場責任者が設置する。
- ⑤ 会場備品、ドアノブ、トイレ等の消毒を1試合おきに行う。大会役員が行う。
- ⑥ 窓・ドアの開放や大型扇風機の利用等で可能な限り換気を促す。
- ⑦ 試合、TO、役員業務が終了した参加者は速やかに帰宅する。
- ⑧ 役員、審判員の飲料等は各自準備する。
- ⑨ 審判は原則1試合とするが、2試合の割り当てとなる場合もある。

※ 主催者側でも常設しますが、除菌シートやアルコールスプレーの持参の協力を依頼する。

3 不測の事態の対応不測の事態の対応

(1) 棄権チームについて

体調不良者が原因で人員不足となり出場不可となったチームは「棄権」となるが、処分の対象はしない。

(2) 会場校が休校になった場合

大会開催が可能で会場校が休校となった場合、会場を変更して大会を開催する。県全体が休校となるレベルであれば、大会開催自体が難しい。

(3) 休校等の出場について

- ① 休校中の学校の選手は、出場不可となる。
- ② 学級閉鎖の場合は、その学級に在籍する選手は出場不可となる。
- ③ 学年閉鎖の場合は、その学年に在籍する選手は出場不可となる。

(4) 大会期間中に参加者に感染者が出た場合

感染者発覚の時点で、大会は中止とする。速やかに県協会 U15 部会事務局長連絡すること。
大会中止の場合、全国大会出場チームは、県の「推薦」にて決定する。

(5) 大会後2週間以内に参加者に感染者が出た場合

速やかに県協会 U15 部会事務局長に連絡すること。